

中学校 1年

心をつかむフレーズを生み出そう

河内長野市立東中学校

教科

国語

単元名

読書を楽しむ

本時のねらい

- ・本のポップに使うキャッチコピーを考える活動を通して、豊かな言語感覚を培う。
- ・話し合いの活動を通して、自分の意見と他者の意見を比較・検討する態度を養う。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・学習支援ソフト（ロイロノート）の共有ノートを使い、生徒間の情報共有をスムーズに行う。
- ・学習支援ソフト（ロイロノート）の提出、共有機能を使い、生徒の制作物をリアルタイムでフィードバックする。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Chromebook ・Chromecast ・学習支援ソフト（ロイロノート） ・電子黒板

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○前時の学習を振り返る。 ○本時のめあてを確認する。 「キャッチコピーを作り、その意図を説明しよう。」 ○ルーブリックを提示し、学習の見通しをもつ。 【写真1】	・前時で提示したキャッチコピーを再度提示し、作り方について振り返りをする。 ・共有ノートの使い方については、効果的且つ適切に活用ができるよう、事前に指導する。 ・本時の活動の評価基準を電子黒板で投影するとともに、ロイロノートにも共有し、生徒全員が基準を理解できるように支援する。
展開 (30分)	○キャッチコピーを作るための材料集めを、個人で取り組む。 ○書き込んだ情報を班員で吟味する。 ○吟味した内容をもとに、キャッチコピーを考え、提出用カードに入力し、提出する。提出は班で一つの作品とする。 【写真2】	・共有ノートに書きこむ際は、思いついたことを書くように指導する。 ・話し合う際は、端末だけを見ず、特に自分の意見を伝えるときは相手の目を見て話すことを心がけるよう指導する。 ・提出用のカードには、書籍の画像などを貼り付けておくことで生徒の意欲を喚起できる。
まとめ (15分)	○全ての班が発表を行う。 【写真3】 ○本時を振り返り、学習した内容をプリントに記入する。	・電子黒板および、生徒のタブレットに各班の提出カードを表示する。発表に対しては適宜フィードバックを行う。

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】電子黒板と1人1台端末にルーブリックを提示し、学習の見通しをもつ様子。



【写真2】共有ノートを用い、キャッチコピーを班で吟味する様子。



【写真3】ロイロノートの提出機能を使い、班で作成したキャッチコピーを提示しながら、発表を行う様子。

児童生徒の反応や変容

- ・以前はプリントで意見交換をしていたが、1人1台端末の特性である情報の即時共有性が非常に有効で、スムーズな話し合いをすることができた。
- ・秀逸なキャッチコピーには相応の反応があり、生徒たちがやりがいを感じていた。1人1台端末を活用することで、キャッチコピーの作成から発表、フィードバックまでを1時間で行うことができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・1人1台端末の特徴である即時共有性を生かした授業を展開することができた。
- ・1人1台端末を学習端末として使おうとする生徒の姿勢や、ルーブリックを作るなど、生徒の活動に見通しを持たせることが大切である。